

（参考様式3）

会 議 録

会議の名称	令和元年度第2回東村山市創生総合戦略推進協議会				
開催日時	令和元年10月17日（木）午後6時30分から午後8時				
開催場所	いきいきプラザ3階 マルチメディアホール				
出席者 及び欠席者	<p>●出席者：</p> <p>（委員） 山本尚史会長、蜂谷信雄副会長、今橋義孝委員、北原裕貴委員、榊原弘泰委員、村田徹委員、山口和歌子委員</p> <p>（理事者） 渡部尚市長</p> <p>（市事務局） 武岡地域創生部長、新井地域創生部次長、柚場シティセールス課長、並木シティセールス係長、伊澤シティセールス課総合研究事務員</p> <p>●欠席者： 當麻武勇委員、溝井裕之委員</p>				
傍聴の可否	可	傍聴不可の場合はその理由	/	傍聴者数	3名
会議次第	<p>1 開会</p> <p>2 市長挨拶</p> <p>3 議題</p> <p>（1）第1期総合戦略のふりかえり</p> <p>（2）第1期総合戦略の延長案の考え方について</p> <p>（3）東村山創生に向けた具体的なアイデア出しについて</p> <p>4 その他</p> <p>5 閉会</p>				
問い合わせ先	<p>地域創生部シティセールス課</p> <p>担当者名 並木</p> <p>電話番号 042-393-5111 内線2922</p> <p>ファックス番号 042-393-6846</p> <p>e-mail citysales@m01.city.higashimurayama.tokyo.jp</p>				
会 議 経 過					
<p>1 開会</p> <p>（会長）</p> <p>本日の協議会は、委員7名出席。委員数の過半数を満たしているため、東村山市創生総合戦略推進協議会設置規則第6条第2項の成立条件を満たしている。</p> <p>次第に沿って進める。</p> <p>平成28度の第1回協議会において、本会議は原則公開とし、その都度、案件によっては一部非公開とするとした。本日の会議内容においては、非公開とする特段の理由はないと判断されるが、本日の会議は全て公開ということによろしいか。</p>					

— 異議なし

(会長)

傍聴の方について、事務局にてご対応いただきたい。

— 事務局確認、傍聴者3名入室

2 市長挨拶

(市長)

本日は大変お忙しい中、またお足元の悪い中、令和元年度第2回東村山市創生総合戦略推進協議会にご出席いただき感謝する。

前回に引き続き、第1期の振り返りをしていただくが、第1期総合戦略の計画期間が今年度までとなっていることから、総合計画等の他の計画との整合性を図るため、1年延長し、2021年度からスタートさせていただくべく、後ほど延長案の考え方についてもお示しする。

市の最上位計画である総合計画についても、本協議会を代表して山本会長に委員として出席いただいている。先日、総合計画審議会が開催され、現時点での今後のまちづくりの考え方等についてお示しした。基本的な考え方としては、持続可能なまちづくりを進めるということだが、その中でも、産業、地域経済、子育てといったところが総合戦略でも重要な柱になってくると考えている。

3 議題

(会長)

議事に入る。

本日の議題は3件。

議題(1)「第1期総合戦略のふりかえり」について

議題(2)「第1期総合戦略の延長案の考え方」について

議題(3)「東村山創生に向けた具体的なアイデア出し」について

議題(1)については、施策の細かな内容というよりは、大局的な観点、基本目標と基本的方向の一貫性、あるいは有効性をどう見るか。

議題(2)については、KPIをどう考えていこうかという点について意見を伺いたい。

議題(3)については、宿題になるが、議題1、2を踏まえ、第2期総合戦略のための提案や考え方をお諮りする。

それでは、議題(1)「第1期総合戦略のふりかえり」について事務局より説明願いたい。

(事務局)

—【資料1】「3. 議題(1) 第1期総合戦略のふりかえり」において、委員の皆様よりご意見をいただきたいポイント

—【資料2】第1期東村山市創生総合戦略進捗状況まとめ
事務局より説明

(会長)

ここまでの中で、質問や意見があれば、お願いしたい。

(委員)

婚活のイベントを2回やっているが、2回目の参加者が少ないのは、初めから人数を絞って行ったのか。

(事務局)

冬場に開催し、天候に左右されてしまったと聞いている。

(委員)

参加者がその後、成婚まで結びついているか等の効果検証は行っているのか。

(事務局)

プライベートな問題にもなるため、そこまでは追えていないのが現状。

(委員)

清瀬市の事例だが、朝早くから小学校の運動会を行うことで、運動会が午前中に終わるため、お弁当を作らなくてよいので楽だったとの声も聞いている。また、学童では、今年度から、夏休み期間にお弁当の宅配をお願いできることになった。暑い時期のお弁当は、食中毒等の衛生面でも気を使うことが多く、毎日のお弁当作りは大変なため、働く女性にとってはありがたい。

教育的な観点で見ればどうかという考えもあるが、これからますます女性が働く時代になる中においては、親の負担を少しでも減らす取り組みが進んでいると感じた。子どもたちとしては、親のお弁当のほうがよい、一緒にお弁当を食べたいという意見もあるので、よいのかどうかは別として、親としてはいいなと思う。

(会長)

他市の事例も含め、第2期の総合戦略を考えるうえで参考になる取り組みがあれば、議題(3)にある、第2期へ向けた取り組みのアイデア出しの中で書いていただけたらと思う。

(委員)

隣まちで生活していて、東村山のこれらの取り組みが見えてこない。行っている内容としては間違っていないと思うが、47都道府県どこも同じことを行っていて、やはり差別化がないと感じる。

婚活イベントなどもあるが、これまで行政に興味がなくても、このイベントをきっかけに東村山の魅力をどう伝えていくかを掘り下げていけばよいと思う。

行政が考えている、ここが売りというところが、残念ながら見えてこないと感じる。

(委員)

同感で、突出した魅力を感じている人が少ないと感じる。地理的には、鉄道、高速道路といったアクセスはよいとは思いますが、住むならばもう少し都心寄りに住んで

しまう。協議会に参加するようになり、行政は市民が喜ぶようなサービスをしっかりと行っているが、そのPRがうまくいっていないのが残念に感じる。そこを強化できれば、しっかりと魅力を伝えることができると思う。

(会長)

今の話は、基本目標3、基本的方向4に当てはまる。魅力がないということではなく、魅力の発信がうまくいっていない、伝わっていないということだと思う。

(副会長)

個人的には、婚活イベントは行政が行わなくてよいと考えている。結婚は私的な行為なため、公が絡む必要は必ずしもない。しかし、突き放しては仕方がないので、他市で行われていて面白いと思った事例として、参加条件が独身の方という商工会主催の食べ歩き出会いイベントを実施していた。婚活を匂わせつつ、地域の魅力を発信するイベントという色彩を前面に打ち出して開催するのはよいと思う。効果測定については、すぐに成婚するとも限らず、結婚に至ったとしてもその把握には個人情報取得が絡んでくるので不可能だと思う。実際の施策に取り入れるのは難しいと考える。

(委員)

婚活イベントは、やらないよりはやったほうがよいと思うが、過疎地とは違うやり方が必要だと思う。まちの魅力という観点では、例えば酒蔵フェスタのようなものとリンクしてもよかったのかもしれない。

(委員)

婚活については、イベントというよりは制度のような形で施策を設定してもよいかもしれない。例えば、立川市のプレミアム婚姻届は有名で、婚姻届の提出時に写真が撮れるフォトコーナー等もあり、記念になると若い方にも人気になっている。立川にはホテル等の会場もあるので、そのようなところと連携しながら結婚を支援していく形も考えていければと思う。

(委員)

転居の要因で、結婚等が上位に挙がっていたと思う。結婚、出産後に住みたい場所を聞くと、勤務地に近いことよりも、治安がよいことや災害等安全性が高い、市の支援が手厚い等が挙がってくる。出会いの場を作るというよりも、少ない金額であっても、子どもが産まれたら長期的に、小学校に上がって引越ししづらい時期になるくらいまで支援する等、この場で結婚しなくても、結婚した世帯を呼べるような支援を入れるとよいのではと思った。

(会長)

重要な視点だと思う。子育てのために東村山に来てほしいという方々を狙うので

あれば、基本的方向2に近いのかもしれない。基本目標1の中では、こぼれてしまっている内容かもしれない。第2期の戦略を策定する上で、新たな方向性なり施策を考えてみるとよいと思う。

(委員)

働き方改革を進めていく中で、ゆとりの時間を自分の住むまちでどう使ってもらうかを考えると変わってくると思う。休日ではなく、ワーク・ライフ・バランスを進めた中で余った時間の使い方。時間ができるということは収入が減る可能性もあり、副業を考える人も多くなる。副業を東村山でどう誘致するかを考えてもよいかもしれない。

(事務局)

働き方改革については、第1期を作るときには言われていなかった。第2期を策定する上では重要な視点になると考えている。

副業目的ではないが、昨年度に開設したジョブシェアセンターや、市内にも民間事業者による coworkingスペースが開設され始めている。この流れも働き方の多様性が現れてきていると考えている。

(委員)

具体的な事例を出していただいたが、情報の展開というところでは、調べてもなかなか出てこないし、市からも情報が出ていないのもったいないと感じている。

(会長)

基本目標2の全体的な指標が「従事者数」であるが、その根拠が5年に1回の経済センサス基礎調査となっている。PDCAを回すに際しては、5年に1度しか数値が出ないとなると、別の指標にした方がよいと考えている。しかし、製造業のみでなく商業等全てを含めた従事者数という統計はあまりないと思うので、代替の指標にするか、このKPIを削らなくてはいけないと思う。第2期で検討したい。

(副会長)

基本目標3、基本的方向3の公共交通の指標について、路線が拡大されたために乗客数のあり方が変わり、目標値自体が意味を失ってしまっている。そのため、数値のとり方を変えるか、目標値を設定し直す必要があると感じる。

また、これらを延べ乗客数で測ってよいのかという疑問も感じる。公営の公共交通というものは、採算性を求めて行うものではない。市民からいかに有意義との評価を受けているかということが測定されるべきだと思う。

また、東村山ファンの醸成については、シビックプライドは重要だと思うが、自治体を意識して対外的な情報発信をすることは、空回りする場面が多いと感じる。なぜかという、人が定住地や訪問先を決めるとき、自治体を意識して行動してい

ない。どどこ駅周辺や有名なものがあるところという条件で決めていると思う。そのため、自治体の認知度を上げることは悪いことではないが、自治体名をブランド化しようとしても、地元に対する市民の意識とはズレが生じてしまう。情報発信のあり方を、対外的な認知度の向上よりも、市民が誇りを持てる方向に主軸を置いて考えていくべきだと思う。市の中で誇れるものを、市民を意識しながらPRしていくことを続ければ、おのずと周囲に伝わっていくと思う。

(会長)

ファンの醸成については、市内の高校の出身者を大切にしようというコラムを目にしたことがある。第2期の総合戦略では関係人口という考え方が出てくる。関係人口に重要なのは、高校OB・OGではないか。観光客は結構浮気者で、PRすればそれなりにあちらこちらに行くが、母校の同窓会等の案内が送られてくれば、それなりのインパクトがある。既にファンの素材があるのだから、高校経由で同窓生等にアプローチをすることもよいのではないか。高校に限らず、スポーツクラブ等の様々なところにファンとなり得る候補がいるわけであり、第2期では工夫次第でいろいろなアプローチができるのではないか。

(委員)

市内に高校は何校あるのか。

(市長)

都立が2校、私立が3校の計5校ある。

それぞれ個性のある高校で、そのうちの1つに日体大系列の女子高がある。特にスポーツに力を入れていて、全国大会レベルの成績優秀な競技もある。将来的にその卒業生がスポーツ界で活躍する可能性はある。以前、北京オリンピックに出た卒業生等もあり、当市のイベント等で講演をしていただいた経過もある。とても有益であると考えます。

(委員)

観光客はにわかファンというお話もあったが、外から来てお金を落とすという点においては、お金につながるので、ちりも積もればになると思う。それが広がれば必然と根深いファンになると思うので、この辺はしっかり続ければよいと思う。

菖蒲まつりに毎年来ているが、正直お金を使う場所がない。駐車場のスペースもなく、外から人を呼ぶイベントとしては、地域柄、難しいのかなと感じている。しかし、よいところだと思うので、お金を落とす仕組みができるとさらによいと思う。

(事務局)

しっかりしたファンを作っていかなければと思う。そのためにどのように情報を

出していくかということだと思う。一時、情報を発信すればシティプロモーションは成り立つという風潮があった。しかし、住んでいる人々が、自分たちのまちに誇りを持ち、誇りがあるからこそ、このまちを変えていこう、自己実現を図ろう、自分の居場所を見つけようなどの活動を増やし、そのことを外に情報発信し、同じシンパシーを感じた人が「このまち、いいじゃん」と思ってくれることが大切だと感じる。これまでの話を聞くと、そのための情報発信が中途半端だったのかなと感じた。

(会長)

シティプロモーションの方向が、一見さん狙いなのかファン狙いなのかぶれていた、中途半端だったのかもしれない。どちらを狙っていくのかは考えどころだと思う。

(副会長)

基本目標2の基本的方向1の農業の育成・振興、地元農産物の消費拡大について、3年間で基準値から数値がほとんど変わっていない。目標値の設定が妥当だったのか疑問がわく。行政が施策を打ったところで数値が動くようなものなのか。効果測定が難しい施策なのではないか。本来の地方創生に対応する議論、KPIの設定に対する議論がなされていない気がする。計画を作るに当たっては、要件を満たすために何らかの目標を置かなくてはいけないと思うが、場合によっては内部だけでも認識しておくべき実態に即した目標を別途考えたほうがよいのではないかと感じた。

(会長)

次の議題に入る。議題(2)「第1期総合戦略の延長案の考え方」について事務局より説明願いたい。

(事務局)

一【資料3】東村山市創生総合戦略の延伸に伴う効果検証・総括の方法及び数値目標・KPIの扱いについて
事務局より説明

(会長)

ここまでの中で、質問や意見があれば、お願いしたい。

(市長)

基本的な考え方は今の説明のとおり。1年延伸するにあたっては、先の議題の中でもKPIや目標の設定についてご意見をいただいたが、振り返ってみると不十分なものもあったと思う。しかし、すでに10月であり、4月から1年延伸ということ考えると、できればKPI、具体的施策の体系についてはこのままでいかせていただき、第2期の総合戦略を策定する中で、ここまで出てきたご意見を掘り下げ、反映させる方向で取りまとめていただけるとありがたい。

(会長)

基本はそれでよいと思う。今後、第2期に向けて考えること等があれば指摘してほしい。

(委員)

総合戦略策定においては、国からのガイドライン等に倣っているように感じ、我々が意見できる部分は少ないように感じている。目標値の単位レベルでの意見が反映しやすいのか。

(会長)

ガイドラインはあるが、あくまでも参考程度でよいと思う。第1期策定の際には経験がなく、国の意向に沿う形だったと思うが、第2期については、より東村山らしい考え方を入れても構わないと思う。むしろそのほうがよいと考える。

(事務局)

目標等については、現時点で固まっているものではない。国の方針を踏まえながら、東村山創生の方向性、K P Iを設定していきたい。

(会長)

事務局の案でよろしいか。

—異論なし—

(会長)

次の議題に入る。議題(3)「東村山創生に向けた具体的なアイデア出しについて」事務局より説明願いたい。

(事務局)

—【資料4】第2期東村山創生事業提案シート作成のお願い
事務局より説明

(会長)

ここまでの中で、質問や意見があれば、願いたい。

(委員)

前回のものを踏まえてということであるが、前回の施策と同様のものでも構わないか。

(事務局)

構わない。第1期の施策で継続した方がよい事業についてもぜひ挙げていただきたい。

(市長)

結婚後の支援についての視点や働き方改革という視点などは、前回策定したときにはなかったと思う。現状を見ていただいて、この数年間で足りていないという指

摘要、費用対効果は別として、他市の施策等でよいと感じる内容など、市民のシビックプライドを醸成する上で有効な手立てだと思うので、日頃感じていることを挙げていただくとありがたい。

(副会長)

アイデアを提出するにあたり、フォーマットを崩してでも思いついたことを自由に書いたほうが、多様なアイデアが出せると思う。枠に縛られず、思いついたことを全て書くという方法でもよいのではないか。

(会長)

フォーマットに自由記述欄を追加する。

(副会長)

アイデア、発想、世間で話題になっているような内容など、東村山ではこうしたほうがよいという内容を提案してもらったほうが議論は進む。

皆さんが入手し得る、関係し得る範囲で、相対的な事柄を書いていただければと思う。

(会長)

提案だが、第1期のときには「まち・ひと・しごと」という型があったと思うが、足りないと考えていたものがある。行政・民間・市民団体の東村山らしい新しい関係づくり、地域経営を行うための関係づくりである。これをその他に入れてもよいと思う。

(事務局)

目標や基本的方向について変えてもよいのかという質問があったが、法律に基づいた計画なので、国と同じ方向を向かなくてはいけないが、第1期については、国が基本目標を4つ挙げている中、当市の総合戦略は3つしか掲げていない。当市でも人口減少傾向は見えていたが、過疎地とは違う性質のものであり、ただ人口が増えればよいのかというと、そうではないと考えた。提案シートにある施策をしっかり行うことで、おのずと人口は増えるであろうと考え作った背景があるので、皆様からの多様な意見をお待ちしている。

(会長)

様々な形でのご提案をお願いします。

4. その他

(事務局)

次回開催は12月または年明け1月を予定している。決定次第早めに連絡する。

(会長)

以上で全て終了である。委員からの連絡等はあるか。

—意見・異論なし

6 閉会 武岡地域創生部長 挨拶